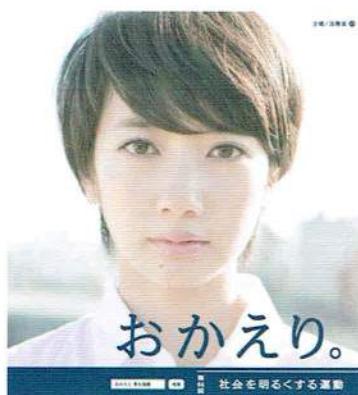


保護司会会報

発行 ■ 西多摩地区保護司会 会長 吉澤洋子 編集 ■ 西多摩地区保護司会広報委員会 発行日 ■ 平成26年12月5日



■ 富士見公園の秋（羽村市緑ヶ丘）



| | |
|------------------------|-----|
| 更生保護制度六十五周年記念全国大会 | 2 |
| 関東地方更生保護大会 | 2 |
| 目 第6 ブロック保護司会組織運営連絡協議会 | 3 |
| 施設研修見学会 | 3 |
| 次 観察研修 | 4~7 |
| 第六十四回社明運動を振り返って | 7 |
| 会務報告 | 8 |

更生保護制度六十五周年 記念全国大会

更生保護制度施行
六十五周年記念第三十六回
関東地方更生保護大会



広報部 三ツ木 謙三郎

きました。対象者の処遇にヒントを得た保護司も多かつたと思われます。式典は、国歌斉唱で始まり、天皇陛下のお言葉奉読のあと式辞、表彰へと進みました。来賓挨拶では、同じ話の多い中、静岡市長のスピーチが印象的でした。「ありがとう」の反対語は何か、と問いかけ、一瞬間を置き、「あたりまえ」と自ら答えました。当たり前と思つてしまえば言葉のキヤツチボールが止まつてしまふが、ありがとうと言えば後に言葉だけでなく心のつながりもさらに強固になる。更生保護活動の中にもありがとうございましたをたくさん使ってくださいとの内容でした。

定刻の三時四十五分、万歳三唱で閉会となりました。



關東地方更生保護委員會
委員長表彰

秋白江井川大遠大川乙大山正克
横森原小山諸森森三細中春鈴島佐近木川川木小井川大藤谷洋邦とみ江
田田島峰田井田下木田村原木貫田藤林村津杉津津野谷洋邦とみ江
一恒み多茂謙忠經玉忠滿登喜紘英豊彦正克
蟲彦悟夫な満子樹三郎昭男惠茂征子功良順治子功明

関東地方保護司連盟会長表彰

平成二十六年度第六ブロック 保護司会組織運営連絡協議会

広報部 福田 宮夫

十月二十四日、町田市のホテル、ザ・エルシィ町田会議室において、東京保護観察所並びに東京保護司会連絡協議会主催の第六ブロック保護司組織運営連絡協議会が開催されました。



協議会は冒頭
主催者より、昨
年度の全プロッ
ク共通の必須議
題として取り上
げ協議された
「保護司の安定
的確保」につい
て、保護司充足
率が上昇に転ず
るなど具体的成
果が出ていると
しながらも、保
護司適任者の確
保については、
なお更生保護に
とつて喫緊かつ重要な課題である。
本年度も昨年度に引き続き「保護司
の安定的確保について」を協議題と
して、さらに昨年度の協議を掘り下
げて議論を深めていきたい、との協
議会主催者からの趣旨説明があつた。

努力が実つたものと思う」との講
評をいただき、協議会は四時四十分
に終了しました。

西多摩地区は斎藤徹広報部副部長
が各地区共通項目である、保護司適
任者確保にかかる保護司の意識、
保護司の配置に関する現状、保護司
適任者の確保のためのプラン実施状
況及びその効果などについて意見發
表を行いました。

第六ブロック

の各保護司会の
意見書に従えば、
昨年度のプロッ
ク別協議会以後、
保護司適任者確
保について意識
に変化が表れて
いることが感じ
られました。

終りにあたり、
荒木龍彦東京保
護観察所長より、
「今年は新任保
護司が大分増え
てきた、それぞ
れの保護司会の
居心地良く、安心して暮らせるよう

な下さり、木村施設長さんの説明を受け
た後、視察研修を始めました。
この施設は昭和十七年に財団法人司
法保護団体八紘社として発足し、途中
学校給食用パン委託加工場となりまし
たが、ご飯重視により平成二十三年に
製パン業は廃止され、二十六年施設名
を「くにたち安立」と変更された、と
のことでした。再出発を支える民間の
施設として、「犯罪のない安全で明る
い社会」の実現と、円滑に社会復帰で
きるように目指しておられるとのこと。
それには、生活の規則を勉強すること、
人生設計を立てることなど、明確な方
針が出されていました。施設内を見学
させて頂きましたが、とても明るく、
安心して暮らせるよう

な一日となりました。研修を重ねる度
に、施設毎に多様な問題があり、職員
の方々のご苦労が想われます。微力な
がらも、応援や協力、そして常に目を
向けていく事など心掛けたいと思いま
した。

施設研修見学会に参加して

瑞穂更女 白井 和子

初秋の心地良い天候に恵まれ有意義
な一日となりました。研修を重ねる度
に、施設毎に多様な問題があり、職員
の方々のご苦労が想われます。微力な
がらも、応援や協力、そして常に目を
向けていく事など心掛けたいと思いま
した。



視察研修

思い出に残る研修旅行

青梅分区 中村 紹男

十月六日・七日青梅分区の視察研修が行われた。静岡刑務所の視察を目的に、二九名が参加。大型の台風一八号直撃予報の中で出發した。途中台風と遭遇が予想されたが、十時すぎ朝霧高原あたりになると雲間から富士山が顔を出し、台風一過の青空となつた。ところが国道一号が通行止めの状況で、東名か新東名に乗ろうとしたが、こちらも通行止め、「道の駅」や浅間大社で開通を待つた。しかし一向に開通せず静岡刑務所



また新任の先生やO.Bの方々との情報交換など、より絆が深まり、思い出に残る研修となつた。

最後に幹事の皆様のご苦労に感謝し報告とします。

十一月四日秋晴れの中、十五名が参加し、東茨城郡の水府学院に行きました。水府学院は、中等少年院で長期処遇専門の施設です。十四歳から十八歳未満の少年が収容され、収容定員は九十二名です。収容期間は概ね一年未満。職員と少年で敷地内はきれいに整備され、静寂な環境の中で、体育授業の少年の元気な掛け声のみが聞こえました。樹齢一五〇年の大銀杏が中庭に鎮座し、いつも暖かく少年を見守っています。水府学院の佐藤先生から説明、案内をして頂きました。

水府学院視察研修

羽村分区 内田 正敏



広大な水府学院の敷地（右側）

研修が済むと、五浦観光ホテルに向かいました。宿のおかみは、近親者に保護司さんがいた関係で、造詣が深く、色々な話を聞くことができました。その後、和やかで楽しい一時を過ごしました。翌朝、同室の先輩から様々な話を拝聴し、大変勉強になりました。朝食後、明治の近代化を担つた岡倉天心の居住跡、五浦六角堂（東日本大震災の約8mの大津波により土台を残して流失、平成二十四年再建）を見学し、しばし明治の息吹を感じながら、震災の恐ろしさを想いました。那珂湊で昼食をとり、今回の視察研修で見聞きしたことを、これから保護司活動に生かす思いをもちながら帰路につきました。



甲府刑務所視察研修

福生分区 竹田 良昭



十月二十七日清々しい秋空の下、

齋藤分区長の挨拶から視察研修が始まりました。

福生市からは森田福祉保健部長が

同行され総勢十八名で出発しました。

中央高速を西に向かうバスの車窓からは木々の色付きも見られ移りゆく季節を感じられました。

視察研修先である甲府刑務所で富永総務部長から刑務所の現状や特徴の説明があり、主に二十六歳以上で刑期十年未満の犯罪傾向が進んでいる男子懲役受刑者を収容している。

質疑応答の後、二人の刑務官よりキヤピック製品の説明がありました。

「○○製品売れたよ」と受刑者に話すと、彼らは自分達の作った製品が世の中に役立っているとの思いから笑顔を見せるそうです。

その姿は喜ばしいことですと語つた刑務官の次の言葉が印象に残っています。

「一生懸命仕事をすれば悪いことはしない・・・」と。

翌日は雲一つない晴天の中、山梨県立フЛАワーパーク、リゾナーレ小淵沢を訪れ、秋の甲州を満喫した一日の研修でした。

また、受刑者個人の資質及び環境に応じその自覚に訴え改善更生の育成を旨とし、処遇要領に基づいて矯正処遇を展開しているとのことでし

た。

収容定員は六一八名ですが二十五年末では四四八名と減少傾向にあります。

受刑者の平均入所回数は、三・一回、六十歳以上が二割、外国人が一割を占め、再犯、高齢化、グローバル化が進んでいると知らされました。

施設見学では、金属加工場と木工場で作業する受刑者を見学しました。そして、将来ここで修得した技術を生かし社会に復帰してほしいと願いました。

セントラルは平成十九年PFI手法と構造改革特区制度を活用した、新しいタイプの刑務所として「官民協働」で運営が開始された。定員は二〇〇〇人であるが、現在一五〇〇人収容されている。社会復帰を主眼としているので、犯罪傾向が進んでいないA指標の受刑者のみである。特徴として、二〇〇台の監視カメラ、全職員の携帯電話に一斉に連絡が入る非常招集システムがとられている。地元企業との連携、スタッフの地元採用、地元の食材の購入等、「地域との共生」が随所に図られている。PFI手法の興味深い話であった。

最後の質疑応答にも庶務課長は丁寧に答えてくれました。

臺灣社会復帰促進センター視察研修

あきる野分区 私市 豊



2014/10/20

質問は続いたが分区長の「時間の関係で質問打切」の宣言で研修は終了した。

PFI手法を活用した、新しいタイプの刑務所での研修から我々は多くを学ぶことができた。その後一行は夕やみせまる平家ゆかりの地、湯西川温泉に向った。

長野県南木曾保護司会との 合同研修会に参加して

瑞穂分区 福島 徳秀

隔年毎に実施される一泊研修が十一月十三日、十四日に行われた。十四名の保護司と事務局一名で長野県南木曾へ。

小雨のなか妻籠宿で昼食をいただいた。山菜料理と山女の塩焼き、少量の熱爛だ。休憩後バスはホテルへ到着。四時から木曾保護区代表の今井豊氏含め三名と瑞穂分区との研修会が行われた。今井代表より議題が発表され「都内で暴力団と知り合い覚醒剤を使用した保護観察中の少女」であった。少女は現在収監中の元彼との絶縁をしたいとの意



司の現況を勉強できとても良かった。バスは定刻どおり我が瑞穂町着となり楽しい研修会も終わりました。

平成十三年からF(注)の収容を開始し、現在十四ヶ国八名の外国人を収容している。

向である。保護司としてどの様な指導をするべきかの問題提起され、本人の「固い決意と地元警察への相談が良い」など色々な意見が出された。一時間半越えの勉強会になった。

翌日は九時出発。昼神温泉郷の「熊谷元一写真童画館」と「満蒙開拓平和祈念館」を見学。

懐かしく子供達の純真さに心打たれた。記念館では戦争による悲惨、犠牲の資料が展示され悲しくやるせない気持ちになる。

一、五四三名の収容定員、現在は一、三六〇名、過剰収容から一転して、約八〇%の収容率に減少している。罪名は、覚せい剤と窃盗で七〇%。平均年齢四十六歳、平均刑期三年五ヶ月、入所回数は四、四回と再犯が多い。仮釈放が三二%と低く、帰る場所が少ない受刑者が多く、再犯の要因となっている。

京都刑務所は、市内山科区にあり、自然に囲まれ、のんびりとした印象を受けた。

歴史を遡ると、平安時代に、左獄・右獄といわれる獄舎が存在したと伝えられ、その後、豊臣秀吉の命による移転や大火の類焼を受ける。

明治二年、府徒刑場が開設され、いくつかの改称を経て、大正十一年に京都刑務所となる。

※F級…日本人と異なる処遇を必要とする外国人

研修報告

奥多摩分区 佐久間砂由利

十一月十一日、保護司七名と事務局一名、合計八名で、京都刑務所の視察研修を行つた。

保護司は次のように述べていた。
今まで刑務所と聞くと「くさい飯を食う、不潔で騒々しくて暗い」というようなイメージがあつた。しかし所内に入つてみると、整理整頓され、部屋には、テレビがあり、清潔に保たれていて驚いた。



赤城少年院視察研修



日の出分区 辻本 恵子

十月十一日曇り空の中、日の出・檜原分区合同視察研修が、保護司、更女、事務局の十六名参加で行われた。

午後一時過ぎ群馬県前橋市にある赤城少年院に到着。緑に囲まれた東京ドームより一まわり大きな敷地に四つの集団寮、単独寮、小学生寮、教室、グランド、プール、体育館、

導やクラブ活動、高校進学、職業指導や資格取得等進路に応じた補導、保護者会や面談等あり、他の矯正施設とは違った様々な指導をされていることを知った。

大人に対する不信感や居場所がないと思っている入所者との信頼関係を築くために日夜努力され、食物アレルギーや湯たんぽの支給等きめ細かい心配りに温かさを感じた。

生活の場と遊びの場は庭を通り通学形式をとっているそうだ。体育館から整然と列を乱す事なく寮に戻る姿が見えた。

少年達のそれぞれが抱える問題は大きいと思うが、職員の方々の親身な対応に、更生してほしいと願い少年院を後にした。

伊香保温泉に宿泊し、施設見学の感想等を話し合い、有意義な研修となつた。

農場を有する中学生が入所する初等少年院である。

最初に概略や少年院の現状の説明を受け、施設を見学させていただく。

第六十四回社明運動を振り返って

地域活動部 松本 則夫

最初に入所しているとのこと。最近は初定員一二六名だが、現在四十四名が入所していること。最近は初等少年院入所前に保護観察処分を受けている子も多く、多種多様なケースで年少だからこそ難しさがあるそうだ。矯正の為の段階を踏んだプログラムの他に、義務教育機関の勉強、クラブ活動、高校進学、職業指導や資格取得等進路に応じた補導、保護者会や面談等あり、他の矯正施設とは違った様々な指導をされ

①西多摩全体の行事延参加者は、四三三名で、昨年より大幅増となつた。（昨年 三、五二八名）

②参加者は保護司、更生保護女性会員、一般・地域団体メンバーや中学生など。とくに、中学生は駅頭広報活動等に二、〇八九名と多数参加してくれた。中学生が全体の四割近くを占めた。若年層参加増により、将来に向け更生保護の啓発浸透に繋がる明るさが見えた。

③分区毎、従来のやり方に工夫を凝らし、主体的に活動推進に務めてこられた。地域の夏祭りと連携した広報活動や挨拶運動の推進、ミニ集会や親子マス釣り大会の開催など、各

各分区の良い点など取り入れるための参考にもなつた。各分区支援は、さらに枠や人数を拡大して展開すべきことと思う。

なお、今年度の社明運動総括として、九月十七日の理事会で社明報告会を開催した。小川主任官・富永主役官にもご出席いただき、今年度の成果や反省点、次年度以降の対処策など意見交換し、共通の認識を深めることができた。



親子マス釣り大会に参加した観察官と保護司

会務報告

保護司会行事予定

理事会

十二月十六日（火）
午後一時三十分

福生市商工会館 三階
二十七年三月二十日（金）
午後一時三十分

秋川ふれあいセンター

西多摩地区保護司会新年会

二十七年一月二十一日（水）
青梅市スイートプラム 三階

西多摩地区保護司会定期総会

二十七年四月三十日（木）
青梅市役所 二階

藍綬褒章授章

平成二十六年度の秋の褒章で永年にわたり更生保護活動にご尽力された青梅分区の梶喜太郎保護司（七十六才）が藍綬褒章を受章されました。お祝い申し上げます。



退任保護司（敬称略）

保護司活動へ奉仕ありがとうございました。

平成二十六年八月三十一日任期満了
廣田 春彦（青梅分区）

新任保護司（敬称略）

左記の方々が新たに保護司として委嘱されました。今後の活動を期待します。

平成二十六年九月一日発令

森久保多摩連会長から各受賞者に対して感謝状が贈呈され、日頃の苦労と活動を労いました。当会での受賞は次の方々です。（敬称略）

池田 政次
(青梅分区)

河邊 篤子
(青梅分区)

村上 浩
(あきる野分区)

石田 洋也
青梅市健康福祉部 福祉総務課
庶務係長

柄元 諭
(青梅分区)

和田 敏信
(青梅分区)

田中 康司
(あきる野分区)

對馬伸一郎
(日の出分区)

多摩連顕彰式典



観察協会参与との協議会開催

広報部 武内 昌一

十一月七日（金）、青梅市福祉セントナーにおいて、西多摩地区観察協会参与と西多摩地区保護司会の協議会が開催されました。

協議会は第六十四回社明運動を中心とし、双方から同運動の反省点や課題、保護司側からは運動への延参加者数及び各分区から活動実施報告等が、

各市町村の行政担当者からは予算等の行政の現状や運動への取り組み等の説明がありました。

本協議会で明らかになった話題を踏まえて、第六十五回へ向けて意見交換をおこないました。



編集後記

◆ 秋の訪れと共に、五年に一度の更生保護の全国大会や視察研修等の行事が活発に催されてきました。第一四号の会報は、これらの保護司活動を特集して編集しました。執筆していただいた方々には感謝いたしますとともに、今後ともご支援ご協力をお願いします。

秋の訪れと共に、五年に一度の更生保護の全国大会や視察研修等の行事が活発に催されてきました。第一四号の会報は、これらの保護司活動を特集して編集しました。執筆していただいた方々には感謝いたすとともに、今後ともご支援ご協力をお願いします。

◆

秋の訪れと共に、五年に一度の更生保護の全国大会や視察研修等の行事が活発に催されてきました。第一四号の会報は、これらの保護司活動を特集して編集しました。執筆していただいた方々には感謝いたすとともに、今後ともご支援ご協力をお願いします。